



◎土木局長、道路課長の交迭

地方長官の交迭に伴ひ土木局長挾間茂氏は地方局長に轉ぜられ、静岡縣知事山崎巖氏後任土木局長に任ぜられた又道路課長灘尾弘吉氏は本省會計課長に其後任道路課長には厚生省軍事扶助課長福本柳一氏が任ぜられた。

山崎新任土木局長は四月二十四日午前十時土木局員を召集着任の挨拶をされた、不肖今回土木局長の重任を命ぜられたが、幸に省内の數部局に奉職したる關係から舊知の方々の多き爲めに我家に歸り來りたる心持がするので安心して任事に従事することを得るが省内在職中は勿論短期間とシへ静岡縣に在任中土木事業が如何に民心に安定を與へ國

民の生活に密接の關係あるかを實感した今次時局に在りて土木事業の施行は極めて多大の困難あるも克く之を克服して一意邁進せんことを期する、土木行政が國內的重要性を有することは言ふを俟たないが更に大陸政策との關係に於て一段の重要性を加ふるのである、一致協力以て明朗に土木行政の爲めに努められんことを希望す」との意を述べられ、辰馬技監は局員を代表して土木局長に新任せられたるの祝意を述べて各般の行政に通曉せられ且静岡縣に於てつぶさに土木行政の重要性を體驗あらせられたので此親しみ深く且土木行政に關しの體驗と理解とをもつ局長を迎ふるは局員一同の至幸と感ずる次第である宜敷御指導を賜はらんことを切望すとの主旨の答辭を述べて此式を終つた。

◎田邊本會幹事

本會幹事田邊良忠氏は四月十四日依願内務技師兼北海道廳技師を免ぜられたが名古屋水道局長に就職せられた。

◎道路功績者の表彰

本會道路功績者表彰規程に依り左の通表彰し關係地方に傳達方を依頼した。

- 岐阜縣修路工夫 竹 中 初 彌
- 同 高 井 新 太 郎
- 同 馬 場 德 十 郎
- 同 田 中 富 三 郎
- 同 龜 山 鉛 吉

表彰狀、二等功績章、單杯一個

◎特許局長官の依頼

昭和十四年度發明獎勵費交付に關し左之通特許局長官より依頼があつた。

昭和十四年度發明獎勵費交付ニ關スル件
優秀ナル發明ヲ誘掖獎勵スル爲從來發明獎勵費ヲ交付シ來リ候處昭和十四年度ニ於テモ豫算ノ管圍内ニ於テ發明

ノ試験費、研究費又ハ見本製作費ノ補助可相成筈ニ付貴會關係者ニ此ノ旨可然周知方御取計相煩度此段貴意度候也

追而右申請ハ別紙様式ニ準シ調製シ地方長官ヲ經由ノ上五月末日迄ニ差出ス様致度此段申添候

(本申請に付ては大正七年七月農商務省令第二三號發明獎勵費交付規則參照)

様式

發明獎勵費交付申請書

別記事項ニ據リノ發明ニ關シ研究致度候間獎勵費交付被成下度發明獎勵費交付規則ニ依リ此段及申請候也

年 月 日

住 所

氏 名 ①

商工大臣宛
備考

見本製作費又ハ試験費ノ補助ヲ受ケントスル場合ニ於テハ右様式中研究トアルヲ見本製作又ハ試験ト記載スルコト

記

記載事項

記載心得

一 發明ノ名稱

發明ノ内容ヲ簡明ニ表示スルコト

二 發明ノ性質及目的

發明ノ特徴及直接ノ效果ヲ詳細ニ記載スルコト

ノ要領

三 本件發明ト他ノ發明トノ關係

本件發明カ他ノ發明ト關係アル場合ニハ其ノ發明者及内容ヲ簡明ニ記載スルコト

四 發明研究ノ經過

本件發明ニ關シ從來施行シタル研究ニ付其ノ擔當者、方法、過程及成績並研究ノ爲直接支出シタル經費及其ノ内譯ヲ詳細ニ記載スルコト

五 研究ノ計劃

イ 研究事項

本件發明ニ關シ今後研究セムトスル事項ヲ明瞭ニ記載スルコト

ロ 研究ノ場所

ハ 研究擔當者

實際研究ニ從事スル者ノ氏名及其ノ履歴ヲ記載スルコト

擔當者二人以上アル場合ニハ其ノ擔當部門ヲ記載シ且内一人ヲ主任ト定メ其ノ旨記載スルコト

尙研究ノ指導監督ヲ爲ス者アルトキハ其ノ氏名及職業又ハ地位等ヲ記載スルコト

ニ 研究ノ方法及順

序

ホ 研究設備

現存設備及新ニ備付ケントスル設備ヲ區別シテ記載スルコト

ヘ 研究期間

六 研究ニ關スル豫算

研究ノ爲支辨ヲ要スル一切ノ費用ヲ人件費設備費、原料材料費、消耗品費等ノ項目ニ分テ計上スルコト

研究一ケ年以上ニ互ルモノニ付テハ每一ケ年ニ分割計上スルコト

研究ニ伴ヒ半製品及不用品等ノ賣拂代金其他ノ收入アルトキハ之ヲ收入トシテ計上スルコト

七 補助ヲ受ケムトスル金額

研究一ケ年以上ニ互ルモノニ付テハ每一ケ年ニ分割記載スルコト

八 補助ヲ必要トスル理由

財政上補助ヲ必要トスル理由ヲ記載スルコト

九 申請者

申請者ノ住所、氏名職業及履歴ヲ記載スル

コト

申請者自ラ實際研究ニ從事セザル場合ハ申請者ト研究トノ關係ヲ記載スルコト

申請者カ會社其他ノ法人ナルトキハ定款、財産目録及貸借對照表ヲ添附スルコト

一〇申請者カ完成シ

タル發明

發明ノ名稱及内容ノ要領尙特許又ハ實用新案登録ヲ受ケタルモノナルトキハ其ノ年月日及特許番號又ハ實用新案登録番號ヲ記載スルコト

備考

見本製作費又ハ試験費ノ補助ヲ受ケントスル場合ニ於テハ記載事項第五項第六項及第九項ハ夫々記載心得ニ準シ見本製作又ハ試験ニ關シ明記スルコト

◎内務省土木試験所談話會

昭和十四年四月中に開催したる土木試験所談話會に於ける話題は次の通り

第一八七回技術談話會話題 (昭和一四一五)

時日 昭和一四年四月一四日(第二金曜) 午後三—四時

場所 本郷區駒込上富士前町二六 内務省土木試験所講堂

新京濱國道鋪裝コンクリートに關する試験報告(振動コン

クリート) (四〇分)

木村與四松
以上

◎近刊圖書雜誌

◎土木學會誌(第二五卷四號)

(近藤謙三郎氏ニ滿洲の都邑計畫に就て)

◎電氣通信學會雜誌(第一九二號第一九三號)

◎乗合自動車(第一三卷三號)

(五島慶太氏ニ東京市及近郊の交通整理に就いて)

◎汎交通(三月號、四月號)

◎自警(四月號)

◎警察協會雜誌(第四六七號)

◎觀光聯盟情報(第三卷三、四號)

◎國立公園(第一一卷二號)

◎セメントコンクリート道路(五五號五六號)

(金澤コンクリート試験鋪裝報告、山形縣コンクリート試験鋪裝工事報告)

○清和 (第六卷三號)

○大阪商工會議所月報 (第三八二號)

○東大陸 (四月號)

○鐵道軌經營資料 (第二二卷三號)

(岩崎磯五郎氏) 鐵道踏切に於ける自動車障礙事故に關する研究 (一)

○法律時報 (第一一卷四號)

○セメント界彙報 (第三七三號四月)

○都市問題 (第二八卷四號)

○土木工業 (第一卷三號)

(內務省) 木造家屋はどうすれば防火的に改修出来るか

○水利と土木 (第一二卷四號)

○土木建築工事畫報 (四月號)

○技術日本 (三月號)

(技術者配給統制座談會、興亞技術の根本原理)

○駿工 (第一五卷三號)

○技術向上 (第三號)

○土木 (第五〇號)

(池本泰兒氏) 全土木技術者大同團結の提案

○技術詳論 (四月號)

(「技術の日本」を改題し技術革新の要求に應せんとするとの事。有馬賴寧氏) 技術家の良心について、須之内久雄氏) 技術の發展其他

○石油時報 (四月號)

○北海道帝國大學工學部紀要 (第五卷第二號)

